

# 「持続可能な開発目標 (SDGs) に向けた 廃棄物の処理とリサイクルー処理と利用の可能性ー」



廃棄物処理の問題は国内のみならず全世界的な問題となっています。特に、昨今の中国の廃プラスチックの輸入規制は全世界に大きなインパクトを与えました。それにより日本国内では廃プラスチックの処理コストが高騰するなどの影響がでています。一方で発生源に目を向けると、産業廃棄物、一般廃棄物のみならず、地球温暖化により、大型化した台風による災害が増加し、被災地や関連機関では大量の災害廃棄物の対応に苦労されています。

現代社会を悩ませる様々な廃棄物への対応は、できる限りリサイクルが望ましい訳ですが、今回のBIZ-NET研究会では、廃棄物処理について改めてご理解いただくために、廃プラスチックの現状について、また加えて大学における廃棄物の分別技術、リサイクル処理技術の研究について情報の発信をさせていただきます。

【日 時】 2020年2月21日 (金) 14:00~17:30 (受付開始 13:30)

【場 所】 龍谷大学 瀬田キャンパス RECホール  
(大津市瀬田大江町横谷1-5 JR琵琶湖線「瀬田」駅よりバス約 8分)

## 【申込方法】

裏面申込書をFAXいただくか、E-mail (rec@ad.ryukoku.ac.jp) にて  
必要事項 (裏面参照) 送信、または、こちらのサイトからお申込ください →  
(<https://event.rec.seta.ryukoku.ac.jp/biz-net-201907/>)

【参加費】 無料



## プログラム

開会の挨拶 (14:00~14:10)

1 「廃プラスチックの現状と今後の展望」 (14:10~14:50)

株式会社近江物産 代表取締役会長 芝原 茂樹 氏

2 「廃棄物処理・リサイクルのための分離技術」 (14:50~15:30)

龍谷大学 理工学部環境ソリューション工学科 准教授 奥田 哲士

< 休 憩 15:30~15:40 >

3 「炭化技術を活用した混合廃棄物の有効利用」 (15:40~16:20)

龍谷大学 理工学部環境ソリューション工学科 講師 水原 詞治

4 交流会 (16:30~17:30)

**参加申込書★締め切り：2020年2月17日（月）**

龍谷大学REC宛（送付状不要） FAX: 077-543-7771

申し込みの際は、必要事項をご記入の上、FAX（送付状不要）でいただくか  
E-mail (rec@ad.ryukoku.ac.jp) またはこちらのサイトから申してください。→  
( <https://event.rec.seta.ryukoku.ac.jp/biz-net-201907/> )



事業所名(貴社名)	(フリガナ)	(フリガナ)	貴社URLまたは事業内容	
		代表者名	http://	
参加者 (2名様まで)	ご担当 部署名/ お役職 名等	お名前(フリガナ)		交流会(どちらかに○) 参加/不参加
	ご担当 部署名/ お役職 名等	お名前(フリガナ)		交流会(どちらかに○) 参加/不参加
会社連絡先	本 社	所在地 〒	ご参 加者	所在地 〒
		TEL		TEL (日中連絡のとれるもの)
		FAX		FAX

<講演概要>

1 「廃プラスチックの現状と今後の展望」

株式会社近江物産 代表取締役会長 芝原 茂樹 氏

中国の廃プラ輸入規制の大きな影響により、日本国内では廃プラスチックの処理費が高騰している状況です。このような現状を踏まえ、国内における廃プラスチックマテリアルリサイクル分野におけるホットな情報と(株)近江物産のリサイクル事業について報告いたします。

2 「廃棄物処理・リサイクルのための分離技術」

龍谷大学 理工学部環境ソリューション工学科 准教授 奥田 哲士

廃棄物の多くは、分別・選別することにより資源となり得ます。ここでは、廃棄物処理・リサイクルにおける分離技術の重要性についての解説と廃プラスチックを中心として、表面処理を加えた比重選別や融着と言われる、物理的な選別法についての研究成果を紹介いたします。

3 「炭化技術を活用した混合廃棄物の有効利用」

龍谷大学 理工学部環境ソリューション工学科 講師 水原 詞治

廃棄物の炭化は、減量化・熱利用・炭化物の利用など様々な活用法が期待できます。ここでは、廃棄物のリサイクル法の一つとして炭化技術の概要を解説した後、廃プラスチック、紙類、金属類などの混合廃棄物に炭化技術を適用した研究事例・成果を紹介いたします。

※記入いただきました個人情報、本学プライバシーポリシーに基づき、厳重に管理いたします。(龍谷大学 REC事務部)

